

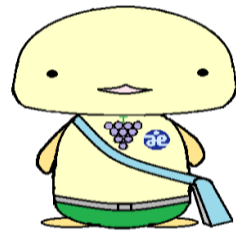
ほのぼの通信 第11号

2021年6月1日発行

訪問看護ステーションかしわら

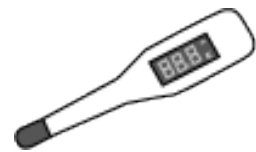
電話：072-970-2171

FAX：072-970-2172



柏原市社協イメージキャラクター
「ほのぼのちゃん」

今年度は新型コロナウイルスの感染者増加のみならず、変異種の増加、医療体制のひっ迫など異例な状況の中でのスタートとなりました。大阪では三度目の緊急事態宣言が出され、社会全体にも大きな影響を及ぼしています。ワクチン接種も始まっていますが、治療薬等の開発も期待したいですね。スタッフ一同、自分も他者も守れるように感染対策に努めていきたいと思っております。どうぞ今年度もよろしくお祈りいたします。



体温についてのお話

コロナ禍で、体温を測る機会が大変増えました。改めて自分の体温がどの程度か、どういう時に上がるのか気になりますか？
ひとは本来、体温が一定になるように調節する機能が備わっています。寒ければ震えが起こって体温を上げようとしてくれます。逆に暑い時は汗をかいて下げようとしてくれます。

それでも体温が上がるのはなぜでしょうか？

熱が上がる原因は大きく4つに分けられますが、その中で多いと考えられるのは感染症です。体温を上げた状態だと病原菌の増殖が抑えられ、また戦ってくれる白血球や免疫機能が働きやすくなります。体が体温を上げることで身を守っていると言えるでしょう。

* * * * *

一般的に発熱は37.5度以上をさしますが、大切なのは普段と比べてどの程度高いのかということです。また体温だけを目安にせず、食事が減る、動かず寝ている時間が多いなどの症状、冷やす、水分補給ができる時はすみやかに実施するなどの対応が大事になってきます。

熱の発散がうまくできていない場合があるので環境を改善しても体温が上がってくる場合は、受診を考えましょう。

* * * * *

現状としてコロナ禍では、37.5度以上あると診察できないという医院、病院が多いので、まずは電話をして診察してもらえるか確認をするようにしましょう。

令和3年5月 ご利用状況

	認定	人数
介護保険	介護	49
	支援	9
医療保険	医療	14

● 訪問看護・リハビリご希望の方はご相談ください。

リハビリ ワンポイントアドバイス



リハビリパンツ(リハパン)って??

どのタイミングで、どんな人が使うのでしょうか？

<リハパンが適している人>

リハパンは、いつもはトイレで排尿しているが時々間に合わない人や、尿意はあるが失禁してしまう人などに適しています。

・時々尿漏れがある人

ナプキンや尿取りパットで対応できる場合もありますが、尿漏れの頻度が少なくなるまではリハパンの方が安心して使用できるでしょう。

・尿意はあるが自力でトイレに行けない人

歩行が不安で自力でトイレに行けない人は、介助がなければ尿意があっても失禁してしまいます。尿意に合わせて介助が必要になりますが、間に合わなかった時のためにリハパンを使用します。

・脳梗塞のリハビリのため

脳梗塞で麻痺があるとおむつを使用することが多くなります。しかしリハビリが進み、トイレでの排泄ができる段階となった時に、リハパンへ変更します。さらにADL(日常生活動作)が拡大するように支援していきます。

<リハパンの選び方>

リハビリパンツを使用する場合は、失禁の原因や排尿状態を把握し選ぶことが大切です。尿失禁の頻度が高い場合はおむつ、少量の尿漏れの場合は失禁パンツの使用が適しているでしょう。

<リハパンの特徴>

パンツの形状をしており、上げ下げがしやすいよう工夫されています。尿を吸収する部分があり、尿漏れの量に応じて選ぶことができます。数回分の尿漏れを吸収でき、消臭機能付きのものもあります。

<失禁パンツとの違い>

失禁パンツは布でできており、尿を吸い取る部分が厚く補強されているものです。一方リハパンは紙でできており、排尿が間に合わない場合に対応するためのものです。リハパンの方が吸収性に優れていると言えます。

<介護者の関わりについて、リハスタッフからのお願い！>

リハパンの使用により、排泄の自立や日常生活動作の拡大が理想です。そのため介護者は見守りを基本とし、失敗しても叱らないことが大切です。転倒などの危険がないように配慮し、出来ないところを手伝うようにして自立を促しましょう！